

# 災害調査データの収集と活用委員会 —河川堤防の被災状況—

---

(国研) 土木研究所 石原 雅規

# 河川堤防の代表的な被害



施設被害:  $R3 < H30$  (個人的な印象)

降雨状況:  $R3 \leq H30$

地域によっては,  $R3 > H30$

河道掘削, 浸透対策などの事業が功を奏した?

個人的な印象で終わらせず, 定量的に評価していくことが重要  
＝データ蓄積・活用の重要性



# 浸透関係の被災 高瀬川 決壊

決壊時の状況は不明

越水×：前後に残った堤防に越水の痕跡無  
痕跡水位も低い

侵食×：侵食が起きやすい河道ではない  
付近の河道に侵食の痕跡無

浸透：？？？

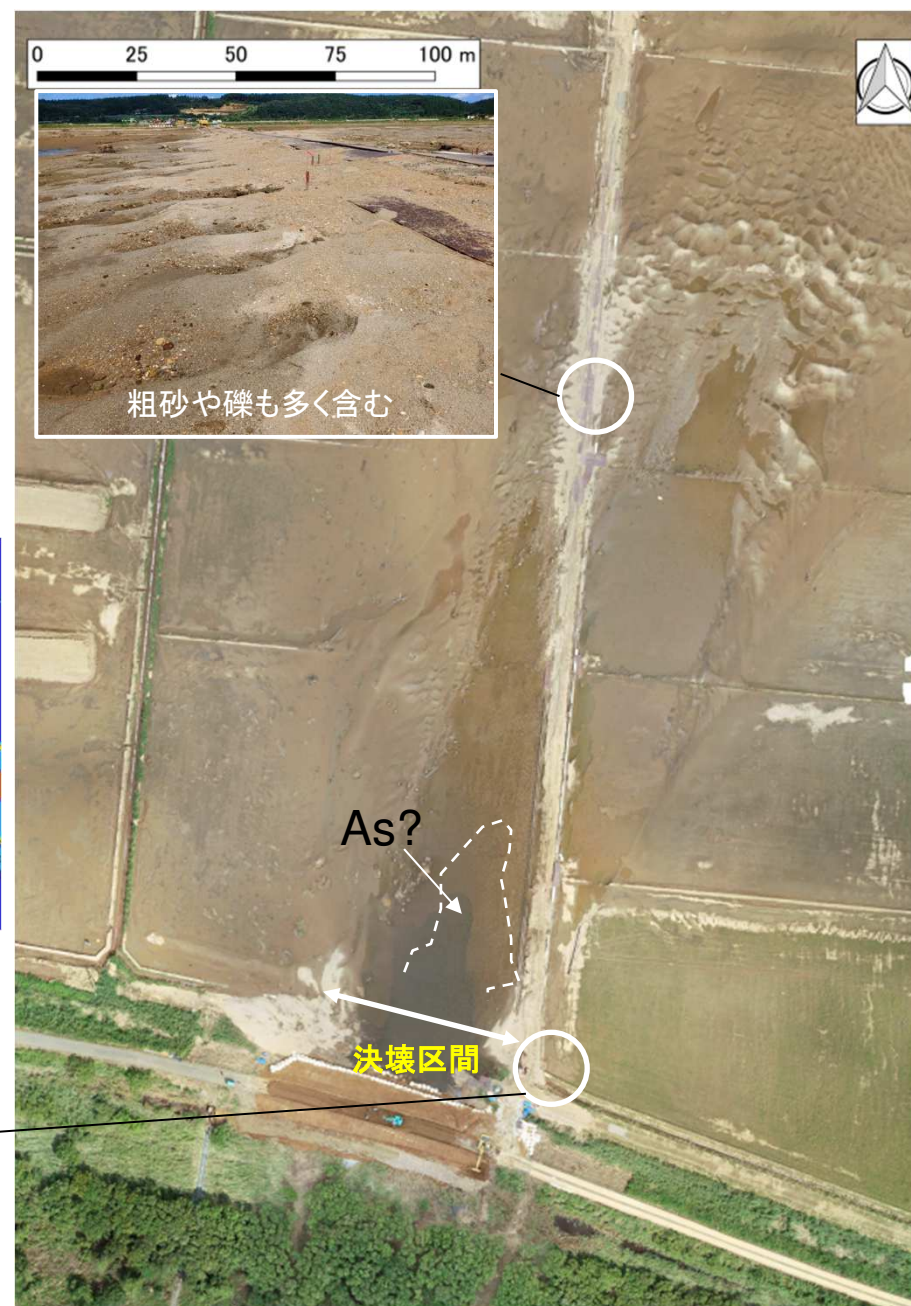
決壊原因の解明は難しいかもしれないが、  
決壊原因に迫り、情報の蓄積が重要



痕跡水位



天端状況





# 浸透関係の被災 芦田川 基盤漏水

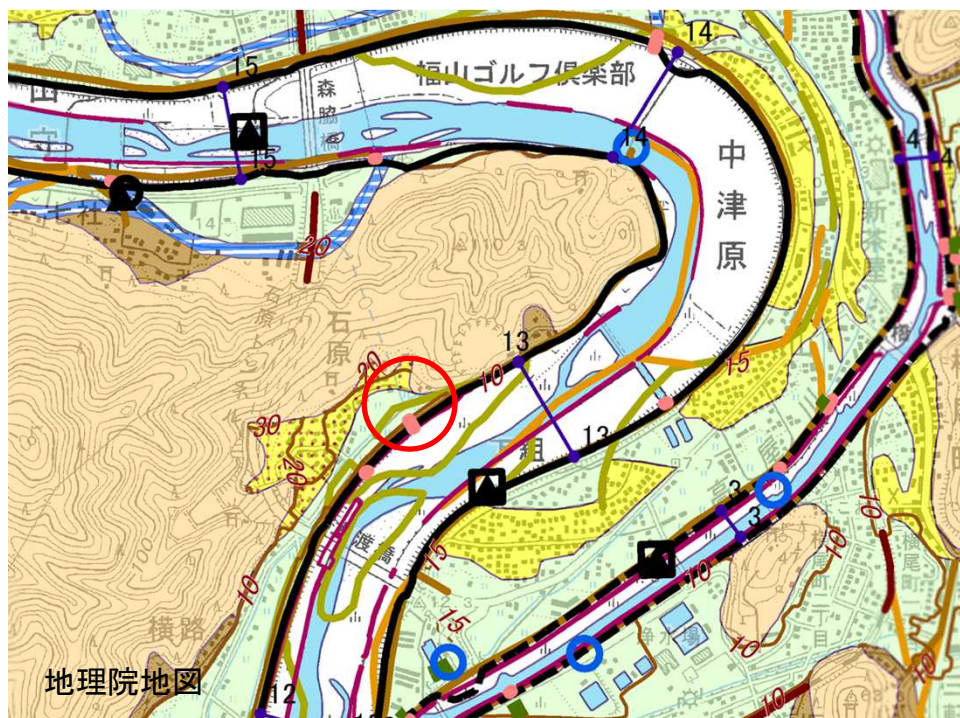
現地で住民から提供を受けた情報

- ・ 繰返し漏水が発生している
- ・ 写真，漏水中の動画

被災は繰返す

過去の被災を分析し，強化に活かす

住民からの情報の価値



| 被災箇所(所在地) | 被災状況     | 住民情報 |
|-----------|----------|------|
| 高瀬川(青森県)  | 決壊(浸透?)  | ?    |
| 犀川(長野県)   | 堤防欠損(侵食) | ?    |
| 江の川(島根県)  | 基盤漏水     | ○    |
| 多治比川(広島県) | 決壊(越水)   | ○    |
| 芦田川(広島県)  | 基盤漏水     | ○    |

H30の小田川の被災では、決壊・浸水経過の解明に、SNS等の情報も活用。

⇒住民からの情報の収集・蓄積の重要性が増大

1. 降雨の程度に比べ，施設被害は少ない印象  
河道掘削，浸透対策などの事業が功を奏したのでは？
2. データ蓄積・活用の重要性
3. データの価値  
被災原因が絞り込めているものや，特定できたもののほうが大きい価値  
  
⇒詳細調査も規定
4. 被災は繰返す  
過去の被災を分析し，強化に活かす
5. 住民からの情報の重要性が増大